

農業用水の節水にご協力を！

7月19日に気象庁から東北地方の梅雨明けが発表されて以降、連日真夏日が続いています。

今年度は降雨量が極端に少なく、無降雨の日が続いていることから、市内の主要ダムや農業用ため池、河川の水位が著しく低下しています。

これから、水稻の出穂・開花・登熟期を迎え、農業用水需要が一層高まる時期となりますが、農業用水は限られた貴重な資源です。

用水の掛け流しなど、過剰な使用はお控えいただき、節水へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

裏面は、「高温時の水稻の水管理について」です。



【問い合わせ先】

栗原市農林振興部 農政園芸課

TEL：0228-22-1135

農村整備課

TEL：0228-22-1138

高温時の水稲の水管理について

(情報提供) 宮城県栗原農業改良普及センター

中干し後の水管理

- 6、7月の降雨が少なく、管内のダムの貯水率が低く推移しています。今後の天候によっては十分な農業用水を確保できなくなる可能性も考えられるため、限られた用水で実施可能となる「飽水管理（ほうすいかんり）」を行いましょう。
- 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂後30日頃までは「飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。

ほうすいかんり ～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能となります。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

✓実施時期：有効茎数確保後から出穂後30日頃まで。

✓入水の目安：水尻を閉めたまま自然落水させ、水田の足跡に水がなくなった頃、または、番水のタイミングで入水する。

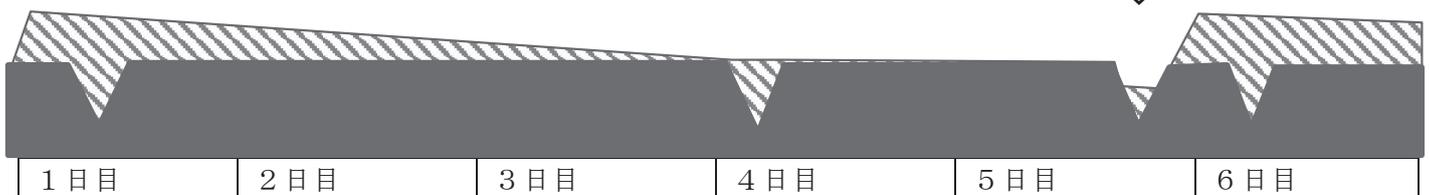
✓効果：通常の水管理では夜間に水温が下がりづらいため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまいます。⇒白未熟粒の発生を助長一方で、「飽水管理」では、夜間に稲体の温度が下がるため、水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行いましょう。

水尻を閉め、田面が浸るくらい（ひたひた）になるように入水する。



自然に落水して、足跡や溝に水が無くなる頃、又は番水のタイミングで再び入水し、ほ場が湿っている状態を保つ。



※ 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

【地域で話し合い、限りある用水を有効に活用できるように工夫しましょう】